

第六節 昭和初頭の長崎医科大学

明治時代からしばしば授業料の改訂を行って来ている事実が如実に示すように、世界的経済不況はわが国の医学教育の経済面にも大きな影響を与えて来た。そして軍国主義・資本主義の発展と共に、第一次世界大戦が勃発し、更に労働争議が起ったが、又、社会保障の問題も次第に取扱われるようになって来た。

さて、大正十三年四月以来、独立した衛生学の講座と共に、この年六月十日には地方学校衛生職員制が定められ、長崎県にも学校衛生技師が置かれた。

大正十四年五月五日、衆議院議員選挙法が改正され、普通選挙制度を採用することとなり、昭和三年二月二十日にはその制度による最初の衆議院議員選挙が行われた。こうして民主主義の発達をみると共に、社会保障の問題も起った。既に大正五年、吉野作造のデモクラシーの喧伝と河上肇の貧乏物語の出版以来、社会問題は医学界に

も大きな影響を示したのである。前述したように大正十五年四月二十五日、社会局に保険部が設けられ、同月、地方官制の改正によって内務大臣の指定した庁県に衛生部が置かれることになったが、内務大臣の指令は発せられなかった。

大正十五年六月三十日、健康保険法施行令を公布した政府は十一月四日、日本医師会と診療契約を締結し、十二月十六日には日本歯科医師会と、同月十七日には日本薬剤師会と契約を結んだ。

昭和二年(一九二七年)一月一日、前年六月の健康保険法が全面的に施行され、第一、第二及び第三次健康保険審査会も設置され、五月には公立病院と健康保険の診療契約を逐次締結して行った。翌三年十二月に至り、健康保険診療方針が歯科を除いて定められ、漸く健康保険の制度は確立されたのである。なお、昭和二年一月二十日、

食肉輸入取締規則が制定され、四月五日には花柳病予防法が公布され、八月五日には航空檢疫規則が施行された。又、十月十一日、国立癩療養所官制が公布され、翌三年一月には農林省より内務省に狂犬病予防事務移管が決定し、六月十五日、飲食物防腐剤・漂白剤取締規則が制定され、九月二十六日には内務省社会局は「船員保険法案要綱」を労働保険調査会に諮問し、十二月四日には「診療方針」の制定をみた。

こうした社会情勢の発展に伴い、進められた医療態勢の確定は、更に世界情勢の変転と共に医学教育にも大きな影響を示した。今、昭和二・三年の長崎医科大学の略史を眺めると、次のようなものである。

昭和二年三月三日、本学々則第六章を削除し、以下の条項を順次繰上げ、第四章中、試験制度の一部及び学科時間配当表を改正した。同月二十五日、第一回卒業生、十九名に、卒業証書を授与した。同月、医化学教室附属薬品倉庫及び附属薬学専門部東側の防火壁が竣工した。又、本学及び附属医院構内に消火専用の水道を布設し、

本学北部隣接民有地七千八百九十一坪二合九勺を運動場並びに菓草園用地として買収した。

四月一日、教授浅田一は願により学生監を免ぜられ、教授阿部俊男は学生監に補せられた。又、教授小室要は願により附属病院長を免ぜられ、教授望月成人は附属病院長に補せられた。同月、附属医院眼科病棟並びに機関室等の増改築が竣工した。九月十五日、本学学生の物故者村尾俊雄の父村尾勝次は村尾奨学資金を開始し、解剖学及び病理学の研究に資した。

十月三十一日、教授望月成人は願により附属病院長を免ぜられ、教授浅沼武夫は附属医院長に補せられた。

十一月、新設の運動場が竣工したので、十二月四日、その竣工式を行った。これより先、三月三日、明治節が制定され、文部省では同年十一月二十九日訓令を発して「今般学校ニ関スル諸法令中改正ヲ加ヘ紀元節・天長節及一月一日ノ外明治節ヲ加ヘ当日ハ職員生徒及児童学校ニ参集シテ祝賀ノ式ヲ行ハシムルコト、為セル旨今般文部次官ヨリ通牒越候条自今右旨趣ヲ体シ御措置相成様致

第六節 昭和初頭の長崎医科大学

度依命此段移牒候也」という「明治節ニ関スル件」が示された。

即ち十一月二十九日の文部省訓令「明治節ニ関スル件」は次の通りである。

明治節ニ関スル件

標記ノ件ニ関シ本年三月三日詔書ヲ発シ明治節ヲ制定セラレタルトコロ右ハ曠古ノ隆運ヲ啓カセタマヘル 明治天皇ノ遺徳ヲ仰キ明治ノ昭代ヲ追憶セントスル

明治節は翌年より本学でも記念日となつたのである。

十二月十四日、附属薬学専門部教授川上登喜二は願により附属薬学専門部主事を免ぜられ、同教授高昌清は附属薬学専門部主事に補せられた。同月二十七日、林学長の海外出張中、教授浅沼武夫は学長事務代理を命ぜられ、同日勅令第三百六十四号を以て官立医科大学職員定員中、看護長の項が改正された。

昭和三年（一九二八年）一月、細菌学実験室その他の新築が竣工し、細菌学の実地修練を深めることになった。四月、文部省は訓令第五号を以て「堅実ナル思想涵養ニ関スル件」を発し、道府県官公私立の大学、高等学校及

び専門学校に通牒し「夫レ教育教化ノ中枢ハ常ニ教育者指導者其人如何ニ存ス是ノ故ニ独リ学生生徒ノミナラズ広ク青年子弟ノ思想ヲ善導シ国体觀念ヲ鞏固ナラシムルカ為ニハ先ヅ教育指導者ニ於テ深ク思フ潜メ我が国体ノ本義建國ノ精神ニ関シテ確乎不拔ノ根柢アル信念ヲ有シ身ヲ以テ範ヲ示シ行往坐臥ノ間ニ衿式スル所アラシムベク又常ニ学生生徒等ノ意向ヲ察シ指導宜シキヲ制シ外間ノ誘惑ヲシテ苟モ之ニ乗ズルノ間隙ナカラシメ以テ健全ニシテ有為ナル国民ヲ養成シ教育教化ノ効果ヲ全ウセンコトヲ望ム」と云つてある。教育に當つては外間の誘惑は厳に戒しむべきことなのであり、教育教化の実はこの誘惑を去ることによって始めて実現されるであらう。

五月、医化学実習室、研究室及び附属医院皮膚科泌尿器科病棟並びに結核病棟等の新築が竣工した。

六月三十日、林学長が帰朝したので、七月三日に至り、教授浅沼武夫は学長事務代理を免ぜられた。

十月九日、天皇、皇后両陛下の御真影を下賜され、同月十一日、奉戴式を行った。そして同月二十九日、勅令

第二百五十五号を以て、官立医科大学官制中、改正し、学生監を廃し、専任学生主事を置き、職員定員表中、新たに学生主事補を増加した。

十一月四日、朝野の知名士を招待し、本学創立記念式を挙行したが、午後より学内を開放して一般の縦覧に供した。翌五日、本学助教授北条春光は、学生主事に任ぜられた。同月十日、御大礼記念式を行い、式後、職員学生生徒一同は運動場の周囲にアカシアの記念樹四一六本を植付けた。

十二月二十日、本学附属薬学専門部教授大倉東一は学生主事の兼任を命ぜられた。

以上によっても伺われるように、大学の整備と、薬学専門部の拡充が目立っているが、大学では昭和二年三月の金融大恐慌に次いで、昭和三年九月四日の米価高騰、期米後場立合休止などの経済恐慌の萌しに影響を受け、授業料改訂の要に迫られていたのである。日本医師会が診療報酬の六割増額を要求したのも軌を一にするところであるが、この問題は入院診療費が人頭額より除外して

政府直接払いとなったり、翌四年（一九二九年）三月二十八日、保険料の強制徴収権を認める健康保険法の一部改正を行うなど、徐々に対策が講ぜられるに至った。